

懐古

八十年

絵と文

金子繁治



①【懐古八十年】

わがまちは海あり山あり川もあり。もう
つ self 慢は天下に知られた「江の島」という
島もある。山は龍口寺の山。北へ向かえば
目白山、赤山、駒立山と続き、ウサギやキジ
も美林に住んでおりました。

初夏にはホケ、白い山ユリの咲く素晴ら
しい山でした。川は境川、別名土地の人は
片瀬川と呼んでいました。昔の片瀬川はハ
セが多く江ノ電のデンキ橋下ではシジミが
とれました。ハセ、シジミがわんざと獲れ
て、近郷からの釣り人も多かった。ハセは
昆布を巻いて甘露煮のお正月料理に。シジ
ミは朝食の味噌汁に入れました。

海では地引網が盛んでした。カタクチイ
ワシは砂浜で天日干して肥料(干しか)を
作りました。高座(郡)の農家は馬力や牛車
に野菜を積んで来てこの肥料(干しか)を求
め、物々交換をしたものです。

村の中心に下諏訪神社、その前方に大き
な池が広がり、岸辺の葦叢の中にはガマガ
エルが住んでいました。この近くに平家琵琶
壺の女先生も住んでいた。平家琵琶の撥に
合わせてガマガエルがアウ、アウ、琵琶の音
がベン、ベン、…ベン。素晴らしいハーモ
ニーに子供ながら聞きほれてしまいました。
今はもう、こうして絵に描いて語り継ぐ
しかありません。